

## 防犯設備士としての第一歩

株式会社 次世代 代表取締役  
防犯設備士 第06-15246号

神田 秀雄



震災や長引く不況、不安と不安定の中で私達防犯設備士は何を求め、何を求められているのでしょうか。

防犯意識の高揚の拡大は基より、各種セキュリティ機器の紹介や説明が私達防犯設備士の主だった役割と言えるでしょう。

しかしながら、何から始めれば良いのか、何をすれば良いのかを困惑されている防犯設備士の方々も多くいらっしゃるように感じます。

平成19年4月5日に防犯設備士資格を取得し、同年4月21日に京都市内に防犯専門店 Re:Lief【リリーフ】(HP: <http://www.re-lief.biz>) をオープンしましたが、当時は戸惑いを感じました。

NPO法人京都府防犯設備士協会 (HP: <http://www.kyo-bouhan.org/>) への加入が私の防犯設備士としての第一歩でした。

そして、京都府防犯モデルマンションの審査委員 (京都府防犯モデルマンション: <http://www.kyo-bouhan.org/model/00.htm>) という大役を授かり、翌年にはNPO法人京都府防犯設備士協会の理事に就任し、現在も務めさせていただき、NPO法人京都府

防犯設備士協会のホームページも監修させていただいております。

また、昨年には公益社団法人日本防犯設備協会主催の防犯設備士試験の試験官という貴重な経験もさせていただきました。

その他の活動としましては、各地からお招きいただき、防犯教室も開催させていただいております。まだまだ勉強が足りず、セキュリティという範囲は、鍵・ガラス・フィルム・カメラ・各種センサー等は一例に過ぎず、建物や車等にも分かれ、日々の機器の進化も加えれば、非常に幅が広く全ての機器を熟知することは困難極まりないものだと感じております。

また、ご相談いただく方の多くは、なにかしらの被害に遭われてから、どうすれば被害を食い止められるかというものです。

確かに被害の拡大はとても恐ろしいことですし、既に修復や修理に出費をされ、限られた予算のなかでお薦めできるセキュリティ機器は限られてしまいます。

星の数ほどある防犯機器から特定の機器を選択しなければならないことは、私達防犯設備士にとっても容易ではありません。

費用を考慮しなければ、24時間体制で警備することで防ぐことも可能ですが、機器や機械本来の意図は人の作業を補うものであることはいうまでもありません。

ガードする人に代わる機器、目に代わる機器、記録する人に代わる機器という観点から機器を選択することが、ひとつの目安になるのではないのでしょうか。

また、被害の事前対応が好ましいことは当然です



し、機器の設置は抑止効果も期待できます。

その代表的な例では、防犯モデルマンションではないでしょうか。

数々のセキュリティ審査項目をクリアーし、外部からの侵入を防ぐ建物構造と抑止を備え、監視と記録を両立させています。

オーナー様とデベロッパー様、入居者様のご理解により、毎月数件の審査会、年数件の担当審査と年々防犯モデルマンション認定件数は増加してまいりました。

セキュリティ上で選定された機器は、決して安価ではありませんが、「もしも」に備え、万全に近づけることは安心に近づくことですから、安心の追求ともいえます。

監視社会問題やプライバシー保護の問題が取りざたされておりますが、私が重要視するのは、監視と記録です。

犯罪の証拠だけでなく、様々なトラブルの回避に

役立つことは言うまでもありません。

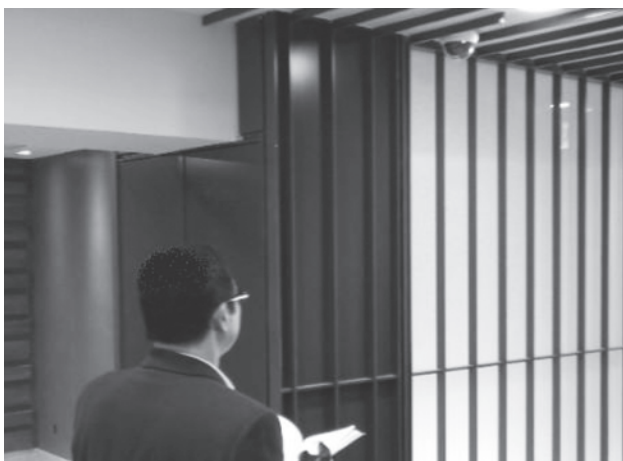
私の得意分野がカメラであったことも大きく影響しています。

弊社が設置させていただきましたカメラと記録機により、万引きや侵入等の監視と記録だけではなく、紛失物の探索や勤怠管理にも役立ちましたとご報告をいただいております。

これから防犯設備士取得されようとしている方々や何から始めて良いか困惑されている防犯設備士の方々に防犯における得意分野の追求をお薦めいたします。

ご自身の特化した英知を最大限に生かし、機器の選定や設置場所を模索することは自身の向上にもつながると感じます。

私自身もこの姿勢を保ち、日々精進していく所存でございます。



防犯モデルマンション審査